共古日錄目錄自卷廿一至卷五十 止

大正四年六月　日

江戸記念博覽會

假事務所　やまと新聞社内より六百六番迄
國不忍池畔本會事務所にて事務取扱ふ

特別
15
1413
2

特
15
1413
2

早稲田大學圖書館
昭25.10.24
購入

共古日錄 第二十一

共古文庫

目錄

七福人まことの顔面の惡口
藤堂侯用船之彫物の金具
和泉屋大申
磯奥岩木山神祭の日記 紙烏帽子
山の手に跪下所なる名なる藤の高人
川北なる名なの考
本朝國語考載 地藏菩薩
ヒアリ砂子所載地藏菩薩名稱
天錢
京京京京京京の高
三河豊橋辺土俗蜻蛉
峠磯碑文
井戸の蛇大蛇の傳說
皇朝金石編所記の偽碑
伊勢山田山の神納繪馬
[illegible]

悉難の埴瓦

方違大明神

可笑の社

海士なる女神社

多陀の地名根生せしと云ふ説

石芊

山姥の地名根生せしと云ふ説

清原氏の氏祖神の説

摘取二方体の石神

双三ヶ所の石碑の伝説

エアの石碑

鎌木さやの大柱

大久保板碑文石水盤銘

徳治の川柳

牛蒡水摂津国しるす書帯薄

大工と仕事と石屋の別

敬別費

御賢い書の石蔵の木印

幸田露伴氏千木箱の説

支那出土の宝貝々々

寶貝形の古物

古筆鑑銘

四方の猛利

近年絶たるもの

鷲巣高平の墓

河部良平の黄茶出唐図目

河童の名称

河和の鎧札

金蔵獨樂と長野井博士幼時のこと

耽奇漫録と其目録

正治三年の墓志

エアの大火行

視聴塩梅録所記馬行法

蜀人の墓に記の載せる義楽

近代迷信流行年代

撥鬢辺

蜀人の猫称書銘ある鏡

藤堂侯領地通用の猫幣銅印

太平の墓に就て

耽奇漫録所記双六二十八種の目録

双六の名称に就て及び双六、川柳黄帝が初代の編者あるべ
盧の基業不載双六盤盤及びあぐの野帝
界の名称及び行方問ふ七福神竹草也に就て
北斗奉行所京都絵巻の別ちなき又京都絵巻の京都

共古日録 第二十二 川流系

福岡地方の左義長ホーケンギョー 工藤平助辺のホーリリホーホ
蜀山百首 狂歌 風の文字
義経記 巻五 大日女来歌
師立の妹の嫁ぎ 嫁と地獄と云詞の起り
清信地獄に行くと牛と馬と云訳 吾書 中野長者の伝説及墓
由縁の女の狂歌悔
獅太人形
山縣大貳の事歌を埋しと云地 谷川士清及拉源
佐竹侯の川尾の屈絞 竹ヶ崎の水入
諭題を数し

高ぎしや又林鶴壽の老人
澤山万蔵本願寺證文
慶應年間の二両紙幣
拝り佛の出世也
新物の高三分眼玉を遣し華乃句
横手元いやで五労が利とふ詞
じやがたら文なるこの所蔵者
遠江見付宿の鎮護一蓮寺の金
薩摩原野出土琉球古き形
丹後の古器物及かま瓶

小さな成斗の書幅
摂州桂本村光寺の総印
鐘の最し銘及梅田道場等の拓本年
三河鐘楼及福面
元禄の萬蒲陽あし石の句
二安針が墓とふこの平戸にあり
鄭子龍子植の植木
柳田氏の破鏡
朝鮮國石器
丹波の石器出土也

下谷及神田まで店とふ名称の也
新発見蔵不蔵大仏及千利の蔵書
湯川通いの駕籠を駕籠とふ
首藁高末蔵
こちやりの名人
須田町青物市の句
堀實遊來
尾張電燈
黒色錦魚
津の新盆百八燈

細川津田橋屋の家例
一首銭
乃まきか餅
大井川の越徒銭
菖蒲の花菖蒲から二つの方法及花菖蒲名処
明釋國本器
むかしは事手紙の文字
菖蒲の花菖蒲の原種也
小城霞粉
葵の紋の異点

一 江戸座乙所蔵吉原娼妓の伏謁
前田書成蔵寺也の罠より天
錦文鏡
耳風集の抄録 及その序
明治十八年より二十二年 迄東京遊歩より埋葬其也

一 江戸座子の名木今に存り奇也
一 蜀塞録の古り形
世事記聞 及その序
高田雲雀 姥遺

共古日録 第二十三目録

鏡の輪郭　　武用の鏡及瑞木と目釘
内外宮より出す所の両宮の数　　天為孔平の逸話及慕宗寺の菓子
孔平墓の花押様の天狗面　　木針
朝鮮出土の標鏡　　旧幕府出入の士族其也
一 天明海嘯の惨事の碑文　　徳川家墓の銘文
四谷城跡用船の古錨と其他捆製にならし記事
朝鮮活字の歴史　　大森貝塚より発見の〓〓
ヤンレイくずしの作者　　スチヤラカの俗尾
鍋のまうたと鍋の種類　　あくさどの衣服

異形の石塔異形の
宝永大銭
さの世名考
多賀につるんとふ
江戸と東京の石敢當
陽明の橋と二重の橋
千歳丸大船言の原申塔
ゆが幼年ものがたりの
朝熊岳の鳥居木
言伝世説物語の載鑄銭

異形用草
異形継桜の銘
小和言和歌山の
川古田氏義本印
銭葵古物七五三
牛馬の八幡稲荷
石蔵塔の横面
三宮銭
菩提樹の鶴馬
弟為四年多部屋の勝業

同書の集報の載金石考用
福島縣郡山の蛇の遺信
神田の年遠い銭
福岡縣宗像郡の銅鈴
同世の名の祭り
大分郡二階堂石仏
宝永頃江戸の名称
納札連の仏及瓢形の連札
先官長八及亀吉の紙
野田の多藤

木の葉の箱書
川の童謡
納札起元の二篇
黒春の島の古瓦拓本帖
松山ミリ鳥
年月日
府中八社の補事及同社の古物
四高校伍辯堂行誠上人の戒名
肥後角力女人形
秀頼八歳の書とふもの

同地発掘された熟瘡敏い燭台の話
いぶり出し臣あ孫とふ野毛人の両墓志銘
弘賢坂金石文　元興寺塔の礎石に刻し負幹及柱材の説
なす
竹内大臣鉄木三次の子孫の説明要点
鮑豆形煙管　光悦本ハ活字ちう
自然と焦用せ[illegible]の伝説の少り
内藤新宿刀剣五の年代（野地のさ[illegible]）

共古日録　二十四目録

元明御陵の碑の疑点
チヤガメラ唐人
富川博士の足袋工ようの新禅及書厨　今泉翁の古萬古焼の燭台　黄磁の話
東京市内名所の書にて有名なんモノ　寶筐印塔の最古のもの
文久三より慶應二年迄ヲ市中火事地　竹取姫の墓とふもの
長野縣下水内郡北方土俗及民話　朝鮮語のノッポル
古萬古鑑賞会の逸物　長谷川主馬邸家の大蛇と男子の話
現今萬古の三種類　木七竹八婦十郎
伊勢鈴宮の出物　の文字ふ[illegible]地方の異
上野公園輪王寺宝物展覧

粗坂の解剖

京傳千蔭の紙幣の印影

舍利は火葬多くあり

京傳の墓碑の墨書

長崎蒲鉾の女魚雲偽言せず

紙幣の印影

青木昆陽下総粗野の土焼記

落合城山トミルの題字及揚句碑

大正博覽會出品記

の墓碑とし馬車屋

紙幣名畫八幡の鳩

黒板塔下の古写經の話

姫路城の製造所

昭陽印文の御印

ミカマのカチ

かるぼこいな

獅の咒ものに就て

狂人塚の碑文

墨書三の三月

四方境内の金石文及天下の墨書

笹下の笑地蔵

佛壇屋雲竹洞秀庄の地

塚の辻番所

山下八景と其の解

筆帽

コロとる言葉

新宿天龍寺時鐘と撞き手

江戸村の時の鐘

山下の今昔と社名に記せる老人

行誡上人の歌

遠の川上源八塚の渡れ

細島後船の木札

墨書の逆火連兵營兩堤通用の木札

豊橋辺の土俗

サワデ米

西川西庄寺四時内近頃の位牌

鳥岡廟の図

大磯崎出の錦魚と海苔職の印鑑

近江オミ立村の花の木

刷毛庵とる語る三説の起りあると

高蛇籠

三河豊橋辺の新盆

伊勢神宮の盆

鏡研ぎの者数あり

武蔵国[illegible]郡[illegible]

[illegible]

伊豆大島の長寿　及び各方言

其他花華

故地にて発行せし新聞紙四年代

異説の説の新説にて始の年

大日本史引傳原稿筆者

立川勇[illegible]寺四刻の奥書あり

経巻

世の香

共古日録　二十五　目録

日蓮宗本行寺の金口

宗教的なる迷信

直入銘若碑のさくがき

銀瓶手水のさくがき

老姥の話

国朝の教授法

和泉の金石銘

弘前猪鼻鉄板さくがき

千住横道念仏さくがき二枚

からす扇に就て

里見氏の高山城

鶏冠井義

[illegible]

備後今津の荒神供する小使

豊義の称元禄とあり

元禄年間善光寺の所在

元禄九年頃の流行もの

かさもりのぜんの後の話

かさね稲荷江戸に三ヶ所あり
神戸の北隣山田村より牡牛を飼す
大久保のもろこし餅
餅菓子類の彫刻
元禄年間中着と異名されし大嶋
萬亀を彫らせる法論味噌の形
仕切せしもの
川崎及大坂等にて用ひ料理屋へ
雲州松江辺の玩具
多羅葉樹は大坂にて多く

田舎と嫁房の伝説出所及附録之
須崎弁天の牡丹木札
天明寛政頃黄表紙の価
近頃迄仮名江戸の面白き言葉
新田大人形造りの土鉄造と云ふ地
新吉原の紋大小新吉原の別売
腰かけ北山と云へる浩原
富士の老富士の画の額如意
安来節
利久の埋葬地

幡州姫路の駒と子宝招き錦鎌との図
鉄をもつての大仏をつくりし
嘉永初年の大仏忌の記録
野嶋山蔵前隠蔵王両神となる
天保十四年町成所解
木術師の自画像
吉備人形の大
二狗頭瑠璃と同木の仏像
浅草の玩具を云ふ又世
極秘への初の名

火打鎌十二種の形
天保八九年十七年頃白米の価
米を下り南部なりし騒ぎ年月日
電車用借庭数人数
天保三年日光山宮師頭併
参考摂津の小皿の図
足立姫の戒名
鶴岡田成守石川橋丁
下谷の小坂

蔵ら嫦娥とともに足ハ蝶せられし　こきたなきに三吉
弘前にある慶長年號の錫宝珠　豊橋在の土器
越前の国焼陶器下　東京小石川後楽園の古石燈の年月
明治九年陽□の唐紙の唐紙　二三の休日 霞ヶ浦と返り年月
山本勘助と左甚五郎生地の燈籠　豊多摩郡近在社寺見聞
琉球国以泥中に泥されし銭　吉原細見が始まりし体裁
古桃形すり形三種　春屋高尾の墓に就て
道三自筆和気に古河産童考　妻子への世話を怠りぬこと
南天と猿の画ある和鏡　好色二代男
四谷の丸小屋　文久三年四谷小川安太郎日記

神田以南が江戸　江戸情人西国巡見世の南日
地本問屋錦形の絵師座と記か歌才の顔書
伊勢ばかり猫の食器を鮑貝を用ひぬか　未る猫茶の大枚と霊石
三河以後鯉の絵馬と絵手鑑　蜀山人書の覚書形
延享三の桜井縁起　當小判十二枚横形
大和秋作画姫載　出羽家年中行事中の正月行事
石敢當　花又村商の市記行
故坪井博士の狂歌

共古日録　二十六日録

兎に関する諸本博士の講話要点　和漢兎の古図

後藤勝彦氏の兎字の説　呂氏春秋　類聚　故事の分類

古俳句に見えたる鑄銭　江戸製結床の鋏　江戸時代より現今迄玉子の産地

両の市考

三両本地峠の祭礼　三両集　三両萬歳の出所

三両吉田神社祭典　藏多寺　江戸時代東西両国流行者の起源の場所

萬葉記所載江戸年中行事　両中元と鎌倉

司馬江蘭孫　種痘書　上総今井村大鷲神社の祭日

京山住居せし地

西の帝の御事

笑話千歳の子餅の図　ある時代に言葉及ばず味噌を正る

八幡宮坂垂　神宮月出度　鼻炎　江戸晩　炮烙　九損一徳

怒さわぐのしわざ　笛道の茅の三角　七の間迄角まする

煙雪隠　鈴つぎ　下司の心い屋にまつる　出雲御羽織

笑話千両工手こそ　ある時代ことばとその他

目口かわる　他生の縁　きん〳〵　夕茅師　ものいふ事

仲頂面　九損一徳　鞠の言葉　新茶高りの年代

浅野梅堂京影　津藩用墨　ある形

八十城四出土のもの　朝鮮ある刻印を鑄子する形

蔵社盆月初迄より火事の帝　見角野ヨカン帝　即ち知る

世田谷のぼろ帝　文正日記和載法印三

三好氏家の種類中毒図　ものの事及考説

名刺と家紋と別　長和の考　左巴右巴の考説

繪馬に就て　元和の桃鐘

ある時代より今に至る　仏社仏剣の見る二足ものの

鐵鍔二枚のもり形　初世唐重の肖像

り狗の宮地　榴山の死歿年月日

鉢坊垂ある碑　安房カンノこの塚

玩具のことに就て書　祐徳

家具の好解沿　祥軽世二方の牧碑

家紋の階子

陽明天神銅鳥居俗猪年月及荒雪の幼冬刻しあり
表裏ある如
ゆつかけ
濱鳴雲月文殊妙
乃木東郷両将の型ぶり形
白牡丹
宝暦二年鴨田の弘誠
京太郎丹波太郎
鬼子母神の耳のもの
はりはあり右般若達ら年月
十二支せ一動物としたる繪馬
無細無人のもの
明前熊国地方のせんべい形
桃灯の種類
大阪の石灯右下右面にあり
湖龍鉄及歌麿の画にあり
河内のおとくちらもの
茅の花の実地
くり抜き納る地蔵
古仏書に見えし銭の解
敏通弟社食地蓋所繪馬
神社の紋
蓮の花の実地
くり抜き納る弥天
八つ目の代りにたてる樹木
西向天神の枯木
玉祖神社の木印と世界の俗説
土地に関せる大阪の西天
蝶よ花よと愛でつくむ詞の意義
蕪ら引とめる稲の不出合と云る他者
成らんいんはねもする歌の他共
宝暦八年の流行もの

青森八戸辺の俚諺

越後弥彦神社経筒銘

越前丸岡三尺禄年間丸山丸亀の火と絶さる事あり又白
い丸亀ゝ拾束し形ちと一対

真乳山勢至地蔵

白光神姫の俚諺

鹿島祭サイトヲの太鼓撥

二股大根を供する社豆

鹿島のコヅリ神

八丈の俚諺

安政七年頃の米及易銭

鉛賣三平の墓

秋父三吉の笑話

大坂寺町に虎の死骸を葬る

府下圓照寺の双盤

相州鶴ヶ岡城前寺住僧の

背銘に義士吉田の子なるとあり

鎖山のけつの墓

福井城の釘まり形

桐之屋文庫

生涯著書説未可信

濱つぐら杉の杉

宗長行脚の頃

西京の地神

駿の地志編纂人名　濱ちぐら

近江の鎧口　二尺の鎧口

新高野　又野上当平村寺の跡ふ日

亀の甲の白らゝ地の湯〳〵納めし年月

共古日録　二十七日録

現今大津西の西之
續五元集所載の彩錢
錦花翁の分

藤巻の鐘
遊女粉の古歌の碑
塔の高さ高し熊谷寺書目
彫物塔婆　乳形塔の金銅
鏡機先住の墓
迦礼世尊の火葬の遺骨
指示指す
志賀殿の蔵王堂の羽黒
いぢ先の合文
野火　菊平姉妹の分り
千代田稲荷の石門
千代田稲荷の裏銭箱
いよ岩
稲荷ずしと稲荷の名字
稲荷ずし書と俚謡

千代田城の高麗の彫り
物の為に黄金千枚の價
の書付書價

古午王

敗歌松が山場に送れる十月東
富士川博士が原始病及治療
文政五年の俗語
荒川堤沿行
屋ヶ手柄と屋ヶ手柄との別
支那人の筆の始始

西本願の用墨
近年貴ばれる書さん義寺
文晁写本のすみ高麗小松原の絵
高野形の便箋
東の碧雲

講演大安
器物のこころ豆柿の木本年魚の地
平野高の鑄鉄
邪人と邪人先者の仕方
善玉悪玉

艶豊の小傳

将軍三上下當日場屋張札
足利の假名字と片假の模
一分三百十四文
安政五年の戸数、家の数
エニアの城の為宝珠の銘
小笠原六郎松焼書
弘法場の年代
女文方と千田の子孫
諸國益稲高の原米

文来の小傳

島本稲荷の社の小鈴の図
墓里寿考人堂の年影
グレンタイとペロウラの流り出
東都橋收名高往来
細川侯の君盛りし大曾葉他
勢州名田橋仏宝珠銘
鉄来鉢四　ちり形
安政七年のちょうちん
家庭婦人會陳列女子教育書目

笹藤と支吉のいはれ
西方が描いた絵巻の此方
上野公園の鐘銘
芝の鐘
板木師が画工の絵を彫す
塔之沢七不思議
文政五六の頃流行俗謡
納札連れ
の平安散入もの図
浅草深川駒込等の名
江戸五郎の如せ〳〵細書
四方鐘銘
鐘は正野が成るか
江戸の板木師
土蔵相模屋
足利の七不思議
住吉流
原吹屋人馬平安散と支那
正法院の鯨口絵及図
銅仏の年代と鋳物師の名

真教と高人の相教
明治廿年頃迄の大久保
譚海の教見せる三の記事
もものびるひとつの遺信
行智西南梨と青見義仲の墓
響とちり弟社
相模の名人半可山人の号名
東曲堂好の硯の図すり形
横須賀書籍
横須賀納札舎の始

大久保尚武出始の日
寛永寺八時鐘の銘
奉寄進武蔵国真鶴の別
東西道名所記所記載
江戸の古面
納札と蛇の如き角を蛇と住吉
千代田稲荷水盤の銘
鶴見まもり高札
慶應四年の流行物
高尾と紀伊と高尾の墓

右ハ元禄の元年あるものか高野の墓ハ就て
信州のシラクチ日高の松藤
妙蔵寺
富山町乃藤十郎新道
ヘニア巡礼の始り年
八日知らずの出意
天文の庚申塔あるとの記事
野望仙と云る詞
十月八日
勝田平助の墓也
今泉高の光林と茶屋
四国英泉の墓也及墓碑形
闘人とゝゝ
方義市の異説
琴仙人の手間境
七人勅臣会議に就て

共古日録　二十八日録

元禄世乃ヘヲの石像
眞顔の鶏鳥の碑
本所の女史石
漢碑の圓雫
足利弘訓が見たりしヲの義家石祠の羽高
羽歌本ヲヲ二色
子に先立ち歌の羽歌
探国碑の墓碑義燃す明僧　不要世皮肉祠の記事
いに就てゝ
蛤貝の恵の、言とまらず　村雲八子　地蔵の始高義家と唱る解説
翠や鶏鳥の画とりを迷信　流行高い土二日　赤羽の迷信
工方ハ言葉ゝ　前ゝりの現い世下ゝ又ゝ
まこゝの牛馬　かさゝりの玉岡子　五月のゝ

のうぶつく足をつけるる
生れかさり　紙玉に次分る

疱瘡をぐださる　弘法の石年
天王祭は湖水を急せず

テラスの言葉　ヲラシガ
なかに水印供ず　聖生　ちかまめ　初年まけんが火災あと
猫と言ふる年に限る　嵐の時あるとつての遠信

紙九郎兵衛が古紙九の話　舟を焼つけにせらるる同年
弘法の魂　竹の翁鏡
俗説貧乏　尼年の説
苦の女形のかつら　ちくも年
鬼門
坊主と教僧との別
淡草寺五重塔九輪の銘
娼妓法華地の墓石行
大到
京三条大橋宝珠状
縁の三行寸の解

豊臣の遺蹟の内近傍の行方三の引馬野十二景
元禄校新吉原つ祝ふ
好牛と田乃重成歌
敬り物り設日
玉鏡祭を見る
新茶を気ちの前に
為校書の筆の字
名を載すと
そもそも茶の経も鏡
承和年代庚申待あり

（ヲラ越味
いはゆる僧の過去帳に茶の所望の
饒益仏事の餓鬼道
秋色の墓

天正数寄者の史料
爲政録の本文
大象に関せる書籍
鋭平一致を見せ
世蔵寺の板碑
鈴木桂庵
三井寺ミ女ヨウ入洋行せしとの落花の書籍
江戸亀戸所蔵の名木
山陽堂狩歌碑
鎌倉奈良及京の五山を知る
武蔵野八景
文林所在
安房が実となりし人跡を墓
植物す紋様あると云ふ種類
北條五代の所蔵地獄あり
雪舟の雪を用ふ場所
大倉鶴彦之ヲ撰
世界名所世界名家の説
漢文翁幼女一周忌の句

機械便覧より歌数を証明す
尋常の真珠貝を食する害
乙卯の夢文青松豊作
便々館は道歌の始祖なり
李文と改名女の秋冬の蛇数
嘗て新富座西洋の天璋院殿賞嫉
一条銀座立売
一朱銀の豊田
箱館道寄人道用品書文
新年頭と三宝寺池の泥沼
千里桐と鳥王は祀る
剣豪と甲斐より是あり
徳田庵に土肥二代の一祖なる
改名三社神殿所在を詳記 青楼
札幌起
歴代将軍家の卯槌歌
北辰田中て四足それより王の説
浅草の閑及文小説
蓮台龍ヶ崎の牡丹餅
近善寺社殿の文化画の額その他

かな文字の由来と唐音　勝鬘太子筆の備用返文
壽人里人の歌　豊橋左一の一子孫祭典の日費物
引る如の大道天　明和七庚巳の園の序文とあるハ弁
深川細見の跋文と同文字まで誤りの一行古道のミ
津藤と八兵衛と府中へ遊びし時の狂歌
ケイドつなる俗
志道軒使用の陽形棒　千住の茶筌
歳暮橋ゆかり遺跡
忘れられたる牛込の二本樹　両国の童とば
新発見の竹の小猫の難の訣
勝海舟大字の角田老人の話と同人の持てる古銅佛

勝海舟大字地球説を前にある右と左の輪の図
豊橋左佳三の持ち団扇より贈りものの縄
細見の以くらまぜし書工農内本
画故物記と縁起ありし隠筆　常盤の墓と位牌ある寺院
廣東三猿坊天　かんざし町業師の本元
伊賀三郎町名勝の三郎町の菱の古色
土の図子と細き町江
浮世絵師画家の跋年々月

共古日録　二十九　日録

崔供養の石筒　細見信仰の異同

裏の神のさいしゝ妻又い幸に縛せりとの説に就て

西大久保の石敢當さゝり形　狗が人をつゝしとる迷信

古代埃及墳墓の要塞　釘ぬき殺い女をもつけし図

少彫の大仏形の図　人七体　そゝりあるもの

今も人力車夫々々の数　せんばいのかゝい紙かゝせんばいのかゝ

枯骨経を誦す　瀬加持

新宿西方寺の鐘欽盃高塔　銘文あるとゝろ

ケイドとゝろば　いまゝん乃ぶくものとゝろとゝばの考

[illegible]の文がらうと発しと[illegible]仏像　ばくものとる考（再考）

徳川氏より乾元大宝を出す

玩具に就て　平安時代　錦金時代　室町時代　江戸時代　名称　天正カルタ
宗教　遊戯類　人形類　江戸初のもの　玩具意匠
千木箱の名称　説　遊戯　ぼくもとる　初の玩具まねごとの説

俚言集覧所載の説明　慶長見聞録所載の説

書人名辻書にさらけ　こと　名称　名称の筆軸

[illegible]めん[illegible]製造の地

周景五大銭始造　華夷変考

新渡の唐物　貞治三年基石つる　の枕屏風

[illegible]の[illegible]　[illegible]と[illegible]　[illegible]の家筋　まで　とる　言葉

[illegible]先生序　後文明[illegible]と年代と同前の年数

四名称の大黒屋と白象の[illegible]　やう[illegible]の境の名称

東京の[illegible]言葉　設[illegible]新名　細見

千代田城見物の[illegible]　[illegible]の[illegible]　植木屋とつさうせとの賀帳

柳北翁漢譯紀行の國　江戸の絵図の名初のもの

和泉村泉敬寺の鐘　[illegible]　玉川文庫の[illegible]

江戸言葉に就て　湯屋三[illegible]の[illegible]の火[illegible]の湯

江戸時代名代の看板　[illegible]勝火鉢　[illegible]形

関東[illegible]言の四好　子[illegible]卯巣[illegible]初の[illegible]

牛痘種痘術の子数　[illegible]　[illegible]　力吉の年號ある[illegible]

[illegible]見[illegible]　種彦[illegible]筆　[illegible]

皆せこの七つ道具

陸奥の鹿とぼと能登の道両地

第あのこまた祿初年こあり

江戸浅方の七不思議

冨川十万塚の子図に就て

同書同元銭

安芳暦

臺子格子

秋田八橋の雛天神

三の曲輪格子の皆少

高天神の影及大聖寺不動の影

東京のさつまも

羽黒山峰勢撰

長野丸竹の伝

世見物伝説に載る五と銭の異名

四の世と長谷の観音の特効

見當評判記の連歌月鏡

弘前地方の古板木さら形

稲荷の名物考

最初年行者の土産

初て米を作し金の牧張 玉高欄模造と銭型将棋の駒

冨川の芝敬の年及その地測り迄の伝

高女六方の文字

秋田の関右弼の孫及の菊元の

地さら形の地木屋

名所案内

元年正月とある物の地化さら形

天保銭形の万年通寶

東京の鳥屋八幡の本と義

易永年つ黄色の足袋

共古日録　三十　目録

元禄八年回向院の地坪　静岡青貝入漆器　刻書
深大寺記行　鎌倉浄妙寺の古印
十二万庵の遺址現存の考　三方二の板碑
下総馬に乗る武尊の古石仏　東京近辺出土の埴輪の産地と傳説
ニヲアシと称する石物　淺草観音の裏銭
駿河のなるも石考　田子の浦の石立地
子古の評板の地　三村氏発見光樹軒の姓
平城東院追善会及長慶寺の墓　まり形
辰巳花柳会墓の墓地と碑　神奈川の人穴

[illegible]知天年[illegible]下駄等履の價　浮世草　[illegible]
遠磨の婦り　[illegible]サンタマリヤ
[illegible]術行者の咒文　[illegible]
紅葉の戒名及沒年の傳說　西向天神　古板木さり形
火鳥　封前合の卿才　[illegible]和元年　太々講とあり　行し[illegible]
生[illegible]年毎の[illegible]　かゝる崔菴の[illegible]
西[illegible]　[illegible]
[illegible]仁右[illegible]逸事　中事と中ぬ[illegible]の別
トタンの名称　古くより　鰻蒲燒
古京[illegible]の原出の[illegible]の矯[illegible]　[illegible]人[illegible]る[illegible]

時刻の名称
[illegible]
房州土俗話
[illegible]西志所載亀戸錢
新[illegible]元指文　大宮水宮
[illegible]　[illegible]
理言集賢の[illegible]
[illegible]中野宝山寺[illegible]
山の子十九番の石標
[illegible]八幡[illegible]

マラッカ錢及ズンカリの錢
[illegible]
房州鉈切萬[illegible]の船
八鳥飼の名人井口氏
神の[illegible]の[illegible]塚
近年[illegible]の名人
[illegible]
[illegible]菴新石の鉛
来迎寺[illegible]塔
蒲[illegible]の枝[illegible]

イナセなる言葉の考説

木曾路の名産

木曾路の産物の名説

紙子 紙の名は

高家産物を婦子 迷信

文久初年風俗理論

伊豆大路のサゴ製 その製図

文久俗論 屋山より板碑出

木曾福島の手球

例刻と云ふ言葉

子供衆取の名説

前田南の水鳥供養塔

蝶々とまれ 菜の花とまれ

天狗山の板碑

狂歌 持歌せん

共古日録 三十一 目録

延寶三年の道中記

中野宝仙寺庚申記

火箭 そつるすを

安房七面山王祭の風俗

淡茅嶽寺鎮御及井桁の説

かさねりの世人の意人

行誠上人戒壇の和尚

王莽鏡鏡

かさねりの世の没年と云ふ

嗚呼頌の紐の人

盤甲人面 古くより行はれ事

南天の葉に 赤飯に盛ること

古板碑に見 なる 隆寺七仏の奉號

蕎麦志 英者と四季の彩色

志賀理科が愛玩せ 踏歌

唐長爆竹の名称

小形の戒刀 祭器の数字

四の字の西人乃信仰

嘉永年號の出所

遊女地川の没年月

雀庵の行状及墓所

嘉靖觀刻三世相に二枚あり

為姫年の歌

大貧美術館にある所の地神

墨山頂上に建る地蔵菩薩の銘

日本橋の石標とその図

所面寺の石碑

金沢及福井辺（鶴ヶ丘人の話）

土板木に彫板手

甲斐市川のキリシタン板

妙点墓地

あり 妙蓮寺名木の未詳

南野博士の博の講演要点

妙蓮寺縁起

点石碑

翌年七年尚齢会

川越より寄せし奥書人の話

金沢の第六ちり形

芝神明千木竹柵の考証

甲斐の左官業の作物

玄故たまこの碑

八宮良能親王甲斐に居住の地

千駄谷八幡の厚木塔

三井寺鐘の寸法

千葉勝下樹姫の墓とて所在

地内初阿堂 歌堂火所

世話人の名 牡丹餅屋の名

金剛寺境内の石塔物

（大切茶屋 造花師）（料理茶屋 隅田川清白）（まはみかつら 城名由来）（場板見人世 城名解）（手函）

常泉寺合戦本に関する童謡

肥後宵小力書

黄碑 山城国ちり形 厩橋城物語ちり形

所沢辺の甲斐国川

築城石垣の俚謡

姫妖怪見世物上

同じく羽子板の図

古雪板鞠注説

板本帥の名人

和国百女一覧載愛宕寺

下総五枚橋の板碑所在也

早月の文字ある板碑説

駄田の雪丈

白樂天詩集に絡子貫せ銭

荀子に記せる刀布貨幣

会稽東湯泉碑文字あるの説

塙斧の十図子

豊後地方言語

カバンの出処子

青山堂の家系

柳本村図書寺新鋳用材

千田長寿の石像と支柱石

古銭用利

銭の名あり

肥後出土人面の経筒名銘の説

肥後羽黒寺九重五七重塔説

パッパ銭い銭鞠の良品を産地

法隆寺露盤銘

神奈川称名寺愛宕山光背銘

輪王寺蔵子箱裏銘

岩代出土石壺の説

十二所漢彫刻石門扉

三又の埋五年月

如意

いの泉橋

這松

同通寺十二景

桐生在蒲見風俗

近世珍奇録載近年の出来事

(天保十年より四年九年)

諸国蝸牛の童謡

大正五年夏甲府紀行

共古日録三十二目録

狂歌をかしの部

川妻の一色様

虎の前の墓

入間郡豊岡町紀行

元禄寶永年間の日記中にあるる目の呪、大錢通用と其相場、大錢止、大錢經寶永六、三卷、

松浦北海翁大峯中駐の鏡銘 萬代和歌集下紐の歌

寛永板あつま地名桶伏の狂歌 評判記追加

江戸名所花暦の傳說

本邦三景の天

二見の三月桂

江戸の銭道

五本骨扇の神佛

朝鮮圓扇繪板木婦形

酒呑童子遺物の伝説
土佐国の伝説
外神田の辻番所
最後の剣見世番所
寶船に画てある鍵形と伊勢の山の神祭りの榊の枝鍵
佐野槍遊女黛
御太刀の伝説
桃園の地
安南語の数字
三州寺解死憑の傳説

二階建ての土地然る生せる伝説
鉦鼓り茅沖と尉子の鈴
永和の鐘
伊勢音どの慶正と其の(ご)揚形
成子瓦揚沽茅栃の本場
中野犬小屋の地
三馬の狂歌短冊
江戸下賤の語
神仏憑の傳説吉祥天、留の

義、津の太子堂、松坂の太子堂、宇治の聖駄天、
津軽伝説千八百解の一班
露國の土俗と伝説
石敢當
五十二類
屋代太郎の稀高遊始
稲荷櫻の大さ
板橋の三尊来迎圖
海上富士の歌
寛永の勇申塔
明治年紀記
天明より天保迄江戸及附近の神仏其他流行りの

勅司ヶ谷鬼子母神　嵐山　高羽　王子　根岸　谷中
太子稲荷　道祖神　日蓮不動　板橋愛宕　高い氏神
能勢里丸　虎の門金比羅　有馬水天宮　盛高寺　神仏
今戸焼　升稲荷　堀内祖師　大森　甲子大黒　帝釈天

初日出　サゴサイ　嵐の札　卦算　善玉　悪玉
比叡山　西教寺　勝栗毛原本　初卯　花見　白酒
風　太鼓　絵馬書　稲荷祭の幟　三圍　桜餅　地の端の土与
鞠人形　五月人形　時鳥　枇杷葉湯　子やだ　水からくり　三毛猫
心太　蒲焼の図持　湯　錦魚　蠅取物　在こや　冨士参の
こまご平次　麹所の象　冨士流　図子絵　地蔵　蒟蒻売り　天王のまきれ　太神　七夕竹の作り物
冨士流　図子絵　地蔵　蒟蒻売り　天王のまきれ　太神　七夕竹の作り物
多賀神　岐阜提灯　広蓙の牛馬　世八夜待　世世四千木　箱　どら焼　かし芋
大福餅　くだり鮎　土平鮎　かんかち図子　寸四稲荷　戌年の年番
焼つぎ　有馬わさび　桃竹　張物　和合水　与兵と家相　凧　鉄砲　久助
ぬかみそ　泥ちゃんすり　絵　早つぎ　真水西　状袋　金的　奴凧
帰帯芋絵　大立字のぼちや　流行音　カルタ　稲荷祭　菊心花
石蕗　朝顔　松葉菊　萬年青　淡草名物　今戸焼土の婦物
玩具の数々

共古日録三十三目録

水道井戸の歌
石蕗と西京峠の絵馬
紋印焼形
川越紀行
すそまりの方言
出雲方言の俚諺
大宮八幡一月見月の
枚岬焼形
猫皮猫皮の用
庚申塔の心蔵
雪助皆悦
紋常物枚木
今戸長昌寺内弁財天
下総書写仏来柳子頭
朝鮮語のムラオシヨとサバリ
初午王子迄歩行
八百屋皆悦
藝人皆悦

多所八百屋の皆帳

寛永の年号ある鏡

無年数字なし歌

國人吉及人男女四見聞記事

大坂名所地寺也り出名塔及

げんほう年号言葉

越ヶ谷訪行

近郷物産名にのせる凡俗

俚諺 オハツ節 伊勢ノ

名物なるべし鹿

碑文谷世多ヶ谷辺の板碑と鐘年号

買鶏田買米とあり香炉

富士見台狩場玩具の地本

土浦海老せん煙草煙形

原中塔

マンナヲシの考説

大山勝栗名にのせる鉞名の詞

江戸屋格子

能龍頭

樹木なるべしトテ

みたらし

ゴスサン

武田勝頼の一子の墓

デコマワシマスカ

笑話本に名前名載通言

他國人に讀ム駅名

満の加言屋切子すり形

あるべき悪魔すり形

せき石恵悦の八〇

四季の高標

蒲焼と長焼の別

札差の今昔

廣田筆問屋の家

濱地蛭大蛭の子

新酒の祝に蛸の足を肴とす

満の加の絶取模様すり形

鉞鉞すり形

家童分四年の年賀状煙形

寶三神

耳あるお福の面

寶母教寶物展覽り　大内光[illegible]種[illegible]家の品
古錢家十全堂と者雀堂の墓　伊勢土宜物枝を墓に供ず
おてんばの説　ほまち錢の説

人物訓蒙図彙載る処の勸進物もらい
鐘勸進　針供養　庚申供待　門經讀　腕香　筆供養の優婆
勸進　栗嶋殿　仲餉取　歌念佛　餅ひらき　手鞠　大原祭
八方鐘　念仏中　鉢敲　代神楽　獅子舞　哥比丘尼
似瀬順丸　高野殺　ちゑ二郎　太平記讀　悲舞　東舞　立繼
門説教　放下　姫等　任吉踊　恭慕　四ツ対　謠　風神祭　雪駄直
船頭非人　節季小　乃嶽祭　鳥追　祭文　ごぜうらい
厄神　物吉

香取記行

共古り錄三十四　目錄

磯節唱歌　筑紫の七夕三代目一九の狂歌
京山はこうに死せず　白板蒲鉾

いかがの
後とまがり姿　男で女　女中の女　祝ひやいろ男女　初はちんこら
でも長茅　積うん　うんだ子の如はいろ
米と西
さ西る鹿島に神あらるがあはせたまふ今一段

朝鮮通寶鑄造年代
越前丸岡のお月様いろ〳〵
祺祥通寶
一ヶ月前成創の牙太ふあと
雪山等懸の考
お鶴亀撃金鶴（ゝ）童同
心越将来ら書帯草
繼三味線
ベンキ多枝りこの名人
淡草の八軒町

鏡稲荷
雪物の祝
持鳥ガ甲
弱ち色小掘形
自然笑花ちまの俳優
五色ちぼの色色
ネスキー次見らし大陽形石
抱一の妾となり）廻女
廣田文の祖父西宗とのこと黄色
墨三（絵住せ徳川士族の数

錢形の菓子
甲斐七夕人形の図
鉛製ゆ子錢
仙巻鑑弁山義金箔枝の辺
下村南店
一九の喜撰寺同墓石戒名
同子孫
高岳年年言
招魂社石標寸又
南蔵院庚申塔

鑄物名家合金法
次郎左衛門雛の高標
馬琴所蔵せ〻茶箱の書付
石巻鑄鉄立し杭の図と享
勝栗屋の類本
戒名同法要の出品の自筆書画
三田の姥石
屋代弘賢住居の地
藤貞幹手爲書古文関する辺
木曾のお三様

四高院道玄悟長の遺年 戒名
大和銘製作の御鏡
面白き茶碗の狂歌
崇福寺流出之本朝鏡
鎌倉八幡宮の森北条(紙)
燈煌聖経断片
府中癩ヶ窪辺紀ノ
三世夢巷四世夢巷とかゝる人
府中の七不思議
說等鯉丈の子孫

電車の死傷数
三重塔仙宮林社出土延銀の寸八
鎌倉大仏堂東寺の古鐘
大見の塗箸地蔵
龍尊鯉丈墓石の文字焙形
夢巷流夢巷二重棚手炉
夢巷と一巷一巷
大文字と名付せし年代
京の小北山は梅巫の部落

大正明子板
伏見のめんこ
津のおこと
浮世美人おこ
古玉の焙形
津の弥勒は他国の遠祖北巷と同し
大坂の絵馬藤
ケチといふる語に就て
浮世風呂に云ふ多ロクととぐるとふる詞に就て
千曲の真砂所載怪異奇談
益裁用の五葉と春蘭
春蘭の花漬

共古日録 參拾五　目録

拾弐銅めし　諸物調和の必要

紀伊国二位ヶ浦明暦武鑑　坪井忠昭士他大小墓之歌

伊勢の椀塚

也尼の水也の也（面ヶ浦）

中野の古塚　物の目ある毒茸ねり

大正の童謡　印度製金鉢模様

豆　蔵　法貝を納る社

雑司谷より也尼也の昔　お庭丈平の下け髪ゑんるキリの図

柏木天神社の古塚　老樗軒墓碑　銘塩形

大正七年三月四日の物價　落馬也蔵

梅雪草の墓 初の持主

東京に於る名古屋うどん

納し鶏馬展覧會

銀鶏の見たる京山

庭談録

梅井秀文の黒田の考

前の山田

伊豫松山の土偶と童謡

鳥八幡

一ッ時四觀音

川越社の板碑

三村氏の原改記行

フンダン燈籠

二年七月市の金鶏の家あり

大寶八幡の鐘銘

平太郎殿の物語

今川絶たるもの

駿河大宮より富士頂上迄の里数

鳥皮靴三図

稲荷の夏祭

兎塚のはなし

大正文化

名古屋辺古墳多かる所

四国新記のすゝ地理傳説

奉安所記録婚草の名称及名主の解

金鶏松田四の古鐘

九ッ橋の西蓮

神田考平氏の説

清水境内玩具集目録人形猫牛犬其他

チッケ の埴形四枚

福助形の埴根の埴のさゝり形

馬形埴輪の考

（宮田氏なる人の呼称と平の考と

なる時との者と）

奉安所記録婚草の名称及名主の解

金鶏松田四の古鐘

九ッ橋の西蓮

神田考平氏の説

清水境内玩具集目録人形猫牛犬其他

雄武殿記録の印と藤枝

埴輪屋吾一の墓と佳岡寺

共古日録 第拾六 六月録

飛鳥山遺見の人骨

廣田華山翁の四宅

杵屋半六の家

高輪の千躍

藏前の子孫まで今に来る者 芝第弐四の番屋の年月

明治初年便利貸屋

端書に誤否を記す

地豆の書写し

笹巻蝋燭

足尾銅山の鑄造地

西大久保人間業の始

宣長の墓地

そばやタの飯

迷信為に家財を焼失す

慶長十五年のキリシタン 都筑

日光紀行

可笑録 西記きりしたんの碑

利休自画賛　　奥加野山の古碑
松本右沢村道祖神の碑　　枚神田若手実名帖
古鐘ツキ口の銘　　ロアマナし阿弥陀経の碑
此辺常徳寺庚申塔　　墓石の上部に刻しある文字
麻布師社にある朝鮮墨標　三河まで半世の方言
三田八幡の高麗狗の年月　慶長三年の江戸繪圖とうもの
大久保所金龍寺庚申塔　お岩の墓
お岩稲荷の四谷の因縁　お岩の没年月
新宿及其附近の八大家の細目
娼家　トッテリトン節　大鳥龍座　饅こん櫛座　能書の豊倉

山の手の撞鐘　天龍寺　三光院　雷電社　蒼天婆々
閻魔　高野長英隠栖地　三光院の芝居　天龍寺門前の芝居
淀橋辺の俚謡　かんく地蔵　中野三重塔の造婦の縁
犬小屋の跡　中野名物唄　中野の茄子苗　鍋木日傍の
迷信佛　宝泉寺の螺　中野長者の財宝を埋しところ
和田義盛手植の松　太田道灌城跡　中野長者高塔の
傳説　桃園　千駄ヶ谷八幡の水盤及石狗の話
眼王の観音　金王八幡宝物　すかす天神　千代田
稲荷の　東福寺鐘　人肌観音と古碑　庚申塔
下渋谷三ヶ寺の鐘　鎌倉街道　大久保名所の始原

百人所　拝殿天　奥州街道　大久保の地蔵山
東大久保の四家　大久保の出生年月　大久保の
的場　諏訪明神の水盤　戸塚虎朝院の鐘
戸塚四面羅盤の大谷　代々永福寺の鐘　慶長谷
茅葺寺名　柏の坂　下茅谷
茅王院堂　藤稲荷名　どミや参　工古田
の狛子　地の内永福寺の鐘　鎌倉街道　かまくら
狛子　ダイメ橋名称考　二地蔵の碑　鎌倉街道
井戸　寒泉寺の鐘　下茅窪中道寺鐘　善福寺
陽寺流　ちこり塚　名大将子孫の地　善福寺大坂

薬罐坂の怪　上井草の狛子　地蔵寺の鐘　月
成魚　三面古井の伝説　高井戸長泉寺の馬駒と角力
永泉寺の弔　多東郡と刻せる庚申猪の碑と金口
大久保の庚申塔　彫金　鬼王社外壁の象狛子
名古屋坂集川の移動　平山行義の住せ　家　壽
と云　郡物所　仏師左文次　四谷天王の切仏
千駄谷市左衛門の木材　大久保の発達　鎌所所の怪
四谷天竺坂の文言　筆者　中野鎌馬屋佐吉の談話　服部
半蔵の鎖　以上細目終
浅草祝言寺鳥八幡縁起　男山狛犬　ヒロミチの解説

館林の明生の大板碑

若此義と庚申塔 此若

山中天水の墓所 與玄山の鬱

元禄六年此若 此若

駿の丸子の大小餅の風船

つ〳〵の名を集めらるゝ人々

此書形と塔別図及定目 此若

雷ヶ丘の古墳 文政十三年 考古舎のもの

伊豆国此文 嘉吉三年の銘ある乳鉢

大和国此中出し本邦鉢

越後狐の文句ある方言

塩時地蔵

彩井某所の庚申塔

三河豊橋辺の新盆

武州の盆とりのこと

岡山鋳成の釜 刀及場の

新潟近外に雷柱 張出し起り

西晋屋 寄板掘形

蜀山人自像の説

其角宗匠来り戸屋辺の俳人

武州玉川辺及上総のまゝの意識

本所ふかがわより出せり 外等

奉献画賛 元禄の偶画及地蔵

西光寺鋳成

いろは歌と伊勢言葉の名称

岡持自画賛

応久二年とよう板碑

共古日録 參拾七 目録

姫兼の井　　薩摩井戸

石神井辺の板碑　　山城に住せる漢輕人の納め金

鄭東宮墓塔露盤　　古鏡及古錢

三の橋茅ヶ崎板碑　　義家の駒塚

[illegible]塚　　砂丘宮あと

若井堂の傳説　　浅草寺の鐘銘

落合より新井辺の金石　　格帯の文

若林寛秋の歌　　一月菓

穴倉のエアるその妙め　　梅の初て記さるゝ書

正久の板碑と称する物元亨[illegible]
[illegible]三年[illegible]元年[illegible]多[illegible]
[illegible]野[illegible]の松の葉の説
[illegible]の説
為[illegible]元中[illegible]見えたる山男
[illegible]の[illegible]の[illegible]同[illegible]讀書[illegible]見
[illegible]用[illegible]人の八[illegible]
針[illegible]
茗荷と[illegible]名字
蛇蝶の迷信

[illegible]との風説
[illegible]附近の石碑[illegible]遺[illegible]
村岡[illegible]郷[illegible]のいもの説
千年鮒
同[illegible]郡の甘露泉
[illegible]の名[illegible]
神留祝は女子に[illegible]
[illegible]の番[illegible]と白[illegible]と[illegible]説
人[illegible]の癖の歌化者
アスハの神

熱田の人筍を食せず
契仲[illegible]氣中の歌及辞世
福[illegible]
札幌に竹[illegible]七夕に柳枝につける
伊勢[illegible]志つび
シッチンがおそ[illegible]の毛

信長庚申待せ[illegible]
徳富氏の大コシヤ[illegible]の歌
[illegible]同天賞堂[illegible]の焼死
[illegible]偽仏経
女[illegible]の和名
三河崔より響明神　亀行く貝　河猿　松もどき
[illegible]氣なる[illegible]の[illegible]書
源平盛衰記[illegible]地蔵造立の記事[illegible]
四谷西念寺鐘銘
考古学会[illegible]

重銘重額重の鐘
司馬温公家訓の出典
福徳元年四月三日寅の一天
壬子の七不思議

武蔵野舎村山記行
長流吸物の吸わり
行誠上人の歌
榊葉せん魚のもり形
胞衣の紋あるとふこと
武蔵野摩狭二郡の解説
ネンネコ様の神事
宿世とふこと
大正の七不思議
滋賀郡長流年中行事

平塚宴（平家物語、支考集）
江戸城二十三門
あつまゆるるふ江戸の心
般に特殊とゆること
高坂弾正忠弾正ちる諺
武蔵鐙
湯あびすることゆるとふこと
北多摩郡の板碑
おしろい地蔵
江戸懸鹿子所載所中年中行事

古銭家大道寺孫兵衛
孫揚枝
大人家の普段最初の生活数
元禄四年しる定の所載の俳句
豊橋五郎家家作り
所沢より久米川辺の板碑
熊本に巴形を刻せる古碑
一日に一切経を写す
の画賛幅
経石中より出し銅板

人形筆
押合後と五葉
江戸幽舎出品の二三に就て
美濃と近江の孫切絵
豊橋市の史（蹟るもの
五文銭近辺より出しとる板碑
一切経七十六通清ける
妙本院出品の古銭三文字四朋
布泉寺傳説
古金口銭（五徳手）

近藤守重の墓所
布泉寺の石五輪
白石の墓碑
盛岡の麥藁餅塚形
地の端の旅行者の石像
意地の京見塚
同 イバの塚
伊東忠太氏の京とはアとの墓誌に関せる表

橋加賀守の墓
八重山童謡
エアヒ踊歌集
陽形の石地蔵
本邦傳ふる最古の墨
意加三の宮辺の塚
同 塚内地西福寺の地蔵石像

共古日錄參拾壱 八月條
山王祭礼墨画の其角の句 調布の行仙塚
燕澤の碑 慶長見聞錄所載江戸名
逸事抄出及共古的記
いアの尾花根 弧尾 ちん才 下帯 白猪の偽物
いアの指々 宮乃庫の平七三郎 日本猪の名称
日本猪に母婦妓唐告立 指々に母礼立 紗りも刑
和書簡より見行す 諸の冬意 布の出所 木綿布
山王祭田文字の母 家ぬ踊りとその吉度
駒髮の凡例 湯女 謡流行 江戸の川々 待乳山

湯殿の梅園　さくじり風　勸進能　黒雲梅ちぐらん梅

吉原所の新梅枝　枝のふり　へんぷくの人　利生あるかな

品川の五重塔　今に極印すると　弘法の筆の跡

この下に所行すると　慶長十九年の大嵐　元和語に

七面堂の梅雨来る　弁財山

七面堂と梅雨来る　慶長三年のこと

慶長三年のこと

のかえ　雪義元念

つゆ中いかと　梅く　兎やらいはかるる　影と民間に

海四川にいかの有る　年盛と聞くものあり　麻懸

所名所記あるは新し　鴨の山愛

宮殿寺本郷　波の神　祇園祭り絵

家康公唐船を造

ら事　柿の名物　亀女制禁　行人少定　エアー

より出る　乃市　大盜　小盜　刑と異なる　男嶽天神

嶽　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ　ツ

日光寺の日光寺　勝心に言都る　足家多くは原地とあり

佐倉の吾妻　説は虚説　蛇の怠合に就て

二野の近の岡　此寺の寺説　諸国名物集

エアー梅の名所　下谷元屋出板の近来との関係

家義は来るの関係　本紀元所の梅嶽

月待板屋　子規の茅蒲の分

雷鳥
北多摩郡史跡天然紀念物見聞及
大井の麻布郡山佛母寺の本尊
桐生地方月見の図をもらひ
佛國兵士俘虜の[illegible]
塩竈[illegible]と其解説
支倉常長三通郡の政図と称せられ
[illegible]寺某師堂の所在地
武蔵国分寺経の年代
鏡師の沿革

日向のうづ[illegible]の跡地
徳川時代諸藩有名の学校
大正の童謡
露兵の持ち帰りメダル欄形
多賀城碑及燕沢の碑所在地 及
[illegible]等の墓地
隅田の[illegible]
[illegible]その[illegible]の

歙人の心得五ヶ条
新為の重塚
弓の種類名称と材料
板橋縁切榎の迷信と下向道路を改修せし事
清水[illegible]と一日向 東慶寺と名称をかへしこと
大久保の[illegible]の家譜図
の古絵馬
大正三年春[illegible]
川越の大通東文石
足利の人四十歳以下にて[illegible]

本郷追分の道祖神と重塚
今泉前の[illegible]辺の古跡の古
学問[illegible]の檀家の[illegible]
道塚辺の板碑と古川[illegible]
大久保の古井戸
大久保屋の地
麻布長谷寺の霊[illegible]

[illegible]の[illegible]社に姉子の社あり[illegible]と

大坂天王寺の七不思議

[illegible]新編[illegible]の[illegible]の説

琉球の物産

[illegible]ノ[illegible]十八年の歴

長老屋敷跡

福[illegible]の心[illegible]

[illegible]さらさらの名言

オミゲリナサイと[illegible]詞

味噌水指[illegible]し書帯草

川[illegible]七のからスラ本[illegible]

大正の言語

黒川真道氏の[illegible]説

[illegible]の考説

焼米の出る地

[illegible]名神社にある[illegible]の歌

[illegible]

東叡山寛永寺創立年代

[illegible]大義[illegible]

鎌倉古墳の年號と考説の名

福羽美静氏大黒天の歌

三河雑記載神社傳説

[illegible]代官[illegible]坂三右衛門

諸書所載の寶永

弘前方言ワラハ

苗字の先号

ワラハ時代の内職

[illegible]時分

栄又帝釈天のせんべい[illegible]

懐中道しるべと題する武鑑

[illegible]黒辺[illegible]行の記事

地名の略語

[illegible]の略語

根岸[illegible]行の[illegible]碑

[illegible]一首の[illegible]

[illegible]又所[illegible]

塩釜[illegible]追加

共古日録　参拾九日録

月影の黒き所にて就ての諸説　塚本博士の説

南方熊楠氏の説にて就ての記事　有馬男爵の説

伽婢子所載古鏡の霊　一つと等と一つとつゝの等乃解

越ヶ谷の雛祭　三方屋敷の三方門

松見塚所載津の古城家　松葉牡丹の意味

北極星の光　古事記の動物図

烏八幡　調布日記の板碑

大寶令の墓制　神前花を以て祭る

寿蔵と墓石造作に就て密信　江戸にて四民墓石を立つる慣習なり

ゴヒン様といふ三河の住人
兜割せんの事
三河豊橋魚問屋の松節
前文故の三四の文に就て
甚だ珍しき大物桂川文のしるしと同文の家のしるしの文
に就て
要石初穂大神祭に就て
粹歌堂所載連詰
あ故に初穂のまるに就て
妙心寺塔頭のまるの数
越後乙宮寺の印彫
鹿丸が家

一里塚の名所
立隔茶屋
増上寺三秀二人の寿字
幾節
鎌山猫石の伝説

火消の番名

火相撲大野寺定吉の家庫
江戸の俗語に蓋を置く火災と知らるる事
鳥居元忠の遺跡
蓬莱園の二条の家医印
其名ちらし如等
京江戸の異名
吉野の桜
三好氏寺の墓
うき鳥鹿うき事

越後谷内と大林の蓋
大相撲の火消の移り
大相撲の遺伝
春日相撲相形
元禄初年西国の使
子孫の人
富田屋の使
四国寺塔内及真乗院の大学説
仏の使いも
庭已の墓
立文供養のもの形

ミンネキの方言意味
罷変せる俚諺
常国霧降山の　を々支紀行の抄出
飯前に標樹を植たし人　罵る狂歌ある管井の櫻並木が傳
此て管井の景望を知る標準　男女陰部の小杉の方言及
弘前辺の方言　勝大宮両国神の年号
雑司ヶ谷鬼子母神の縁起　遠州見付宿の傳記
大仏を造るに就て説解　冨士に関せる迷信
腹病七転八倒と咒法と同種類の病風俗の説話
市川家十八番の定めし年代　外郎売の狂言の年代

七福神
熊野牛王の烏

読難き文字と竹数文字　せいたくせんべい堀形
焼塩壺と焼塩石　誠諦は帰ある琉球語と云ふ説
松の名物の文句の編　下野行道山と一株の及
他説其他　堂前の地は今の松葉町
根本武揚の訓

共古日録四拾　目録

屎二ツ書銘の図に豆ゝつる蓋二ツ　絵書と云ふ　提馬風
どりなどゝなし人
東国所載の墓石の図　お初天神
すぐめかまさか　国民道徳帝の書初の歌
渋谷金王社の偽宝珠　天狗仲絵巻の図の絵馬
諏訪記行　かゝる図銘餅搗形
樂箱の墨書　州人名城の墓石図
蓮華の仕掛　蓮華文の石塔文字の形
七千餘巻　三途の川

あがたぶ
まめでおて
木ぞり
根合
物無の古名
物無造りの名人金義
風俗文白の起り
風の雅合
風の種類
深川
火寄記行

山の座主
だんまつま
和泉流
物無の雅合
物無の種類
物無の材料
道路を歩く光
風の古名
遊男の種類と遊びこと
玉川堂岸の牧碑

モテタとこと言葉の考
會津地方のダイダラ法師
下館辺りの出塚
カモノカキと称せる道
参詣者の住吉寺
大正九年八月の碑
北多摩郡中野村の牧碑
由緒とこと語
下伊那郡の住説
笑棹説

大津東町は相撲とこと説
つねまつ
大正七年秋光魚の原
背見村の村民新田開拓(寺前寺社
大正七年の初雪
宮中御用の罰紙
五湖の起元考
蝦夷
角兵衛獅子の詞
崎玉の雷頭

世三尺の埋蹟
エアの板碑
内ノ子村為鎮守と為し所の信仰
遠江の印し
勝坂の板碑
中仙道碓氷
秩父山の史影に就ての迷信
伊那郡辺の石器埋蔵
稲荷の狐とんぼ
信濃の起立りいたり

燒物の出典
あかがらの形状
知行所忠重中山寺
石神井郡田谷村
伊豆海の境界
第拾の名物に就て
天下一の鏡銘
琉球語アゲクノハテ
コシマドルベリイ区エアの善せ

燒物の刻せる板碑あると
琉球の人の教育に用ゐる書
男女共に吉凶を決する人力の信仰
せいなんじ燈籠
怒鬼の板碑
岩に用ゐる吉凶
考古學にて新しき籍に見たる
押手の神
玉出とお白粉
鬼は内福は内と云ふ

い原女の野立
月見塚の由来
坂戸の石の仏
重箱にて明て見たらばと云ふ論
伊那郡やとの埋蔵
支那古に鏡なりし事
宋人交易の圖あり
見に関する伊那人の考
興福寺金堂燈失の年代

共古日録 昨年一月帰
京都四方の岩倉山
七五三の祝言の解
流雨の月日
梅若丸の墓石とされるもの
疫の疫神と祈る神
弘前にある烏八幡
白水郎と潜女
大正新語
卜部神道

初願祝
五百八十年という祝辞
古墳より多くの鏡出土の記事
墨書は呪を記せりと云う
長谷にいる烏八幡
占法の種類 冬至二の日
神文古社の聖書
長崎奇帳
琉球国用法

鉄砲谷也 鉄砲の記
阿首島
蟻の二ら兜
朝鮮の文字謎
支那古代の燈火器
三ツ鶴丸の前の古図
やからの切能
深川公園の三地蔵
深川の二軒茶屋
狂歌の原中

ヘンキ職の使用する刀剣名
あこぎ平次の傳説
鉄砲の狂歌と笑話
石鼓の石質
新口文が注意(及び)淡
新鑄古鐘鐘
鉄能紀行
角力番付の藏の碑
明和年間の藏の料理と比
初音の郎と吉原の名妓年號

芭蕉庵の跡
千石筏
青竹の紋章
法燕人等碑
大三郎碑
巖島の經堂
奥州笠島の道祖神の習元
大師の京の月盤の遠し碑
サヤノカミ、タムケノカミの祭
筑波の山の支柱鉾

海源寺の鄙の歌と年月
誓文碑
宣分節の原唄
禅宗僧の名目と解
千度参り
其角の窓鉾の分解
代待の解
二中下る三軒の杯
道成寺の鐘
ちばの山の麓の六角塔

信州飯田の童謡

千駄谷八幡の切樹及び大銀杏
桐ヶ谷氷川社石碑の跡
善光寺算盤の焼物
松井村の心願稲荷碑
新田村の雷電神社
永福寺の道場つもりの遺の雷水
高木二の邊成年月
戸塚にある天祖神社の源
戸塚の赤城神社

百草松連寺供松碑
能野神社魚家縁り寄付の碑跡
十二社の碑銘
地内妙法寺の仁王
華園稲荷の社の金石跡
新宿の大木と重塚の跡

淀橋迷信家の告札
淀橋砂近神社祭日
田地明
小神輿新調の費用と山車の新
鶴口の縮の俗説
唐言ちゝ歌
心義為の種々の名称其心
天正七年の飢饉地
書古くまこと(たる心震の碑
俗名の図見

柳木田家つり木と
中野三重塔の建物の木像
薬と玉蜀黍
費用 男之の寸法通記碑
四里の石の馬鈴男の土ち形
五才八草湯
長歌の寸こころ長歌寸分恩
流柿い西上
歌と心震 乃木魚の由来

共古日録　四十二　目録

薄の強大なる生活力
香の雀の籠
四月の鳥の解
四条正宗の墓と天和の庚申塔
江戸附近の名見の場所
鶏の玩具と鶏神社
瓦押　ある意味
ガラスカ土人の器具
石塚原紀行
式電鉄沿線の名所
江戸時代人名の意味と騙り話
雑司谷より出し板碑
蜆に就て
伊勢のへこび鮨
一九と京傳の狂歌
第博覧会の解説
望洋機
戒名の板碑と守札

前田家と義経伝説
成田山の縁起　三面の年代
日本巡国者の歌　日数と道順
川柳　七十余日の解
古寺影松木
海晏寺の板碑
高野山の美術
越後の笹まきちまき
四谷の所々と伊勢参
子子の白と子の祝言

成田山守りと水天宮の守札
矢弓根とは守りのこと
武蔵野の草と人との物語
古刹の路印
阿弥陀経模刻碑
豆い大坂
生駒岩崎
越後人は四番一枚不足すと
関係の四人厨年月の刀の解説

共古日録　四十三　目録

白雉　俚諺と迷信解説
藤葉栄意記載する書籍異録　墓集家のつゝ
永井禄翁の下所巡の話　江戸銭湯年代記
湯屋の看板　山の子供八番観音
大和竹　鈴塚仙洞神社
目黄不動　吉見百穴より妙山巡行
伊賀者と四谷の天王　入間郡高麗村紀行
百草高幡唐木田分寺巡紀行　新潟市三宝寺古木墨
諸世に出し珍本　動物の命名

三巌八設
弘前せんべいの楊形
越後の弓石様
武蔵なる名称に就て
田螺の童謡に就て信夫人の説
總持寺にて観月會
群馬縣佐野村定家神社の縁起
大正の童詞
駒場の事成
完尾

鎧橋名称の起源と橋杭の鰹様
越後東蒲原郡に蝸牛の事を[illegible]と謂ふ
武蔵野に関する諸書摘要
十六むさしに就て
椰の葉の家紋
四谷伊賀町に住せし本居
深川の正木稲荷
寛永三回帰の日曾宮[illegible]
江の島の文字世に出ず
佐倉町長勝寺福徳二年の鰐口

あづまやあづまからげあづまごゑ
武蔵野[illegible]
久留米の田螺の童謡
師宣の絵にある手拭地
東京朝日の創刊年月

伊豆の長崎と其近辺の名所
月に関する童謡其他
狩野見聞草
弘前のヨサレ節
近在の庚申塔

共古日録　四十四　目録

源義経と成吉思汗の傳説点　七不思議

新吉原　鶏と鉾ず　群馬郡大室の伝説

東京の伝説　出羽金山の長者共ゴ長者

如意輪寺の名称の起りの考　太田の金山紀行

大宮八幡の紀行　鉄能の紀行

神社の名称　故郷の素山追弔会

鶴ヶ崎くらべ　書屋金鶏寺名文字雛寺雛塚の編形

福島紀行　福島紀行

福島方言　神鳥の虎と其父の名の話

神社伝説に見たる限屋の事　古屋せんべい

近年の毛織　鉄道院案内記所載の民謡

成吉思汗北の新説　越後国蒲原郡の出俗

蜀山人　蜀山人の国子い就て

銀座所の起り　銀座の職分　筆子其老人の話

心正堂の狸毛筆　書ふ宮参　坂の雨の事

信州飯田の方言センシヤヌシノ和尚サン　弘前方言ミシミシノケッカ

電車切符の四角なる日　野馬郡大室の碑の正

飛弾高山の方言特色　小室と称ぶ　煙草と他らの民言

伊勢のイシ

九本形出土
七五三の祝
動植物の自然を写し始
蛇の傘の古今
道灌山の芝見
天水桶に所名をつけし始り

如義尊縁日
江戸大道飲食店
祢宜渡行者千年系
中村平子女之の多賀盛
飯能の仙人

共古日録 四十五 目録

夢想

北枕

二人と自書する例
甲斐の人加藤留蔵の短冊
女衒
耳元鐘近とゝ狂歌
乳弾の誓ひ
赤鍋と称
いなごが乳の
縁起の法
猿楽の面緒と住所及年の上句
三井果物屋の狂歌と果物の狂歌
歌の虚心斗の歌と一九の狂歌

女衒
ゆくゆくは人の妻なる者なれば
別れ惜しき恋の縁喜に乱れて
江戸の古碑仏今に乱れて
鳥八郎
蹴鞠図考説

蓮華のはがき

蟬の声

武蔵国分寺紀行

岡山県の国の言語

琴歌

青梅紀行

鎌倉はがき

宿とること

本多庫次の和歌

潮来節の原語

飯塚俊角社

猫丸、猫と婦人

別れ

昇仙の竜美大嶽の話

東京市電の話

清三のこと

狸

能登

紀行

あるの呪

家屋の間

鎌倉の話

高砂の話

四谷の話

動物

隅川の記

碑

元禄の碑

東京の話

以前

四谷の石工

猫

碑

雑馬

能楽

能楽

共古日録四十八目録

念事に関せる史料

古文書に見たる道鏡の靴　新宮三年不動燈

墨書千日塔の古名　熱田の寄祭

者ふ善光寺永盤　物の屋さ変さら蛇の創作者

記永の墨画に載の墨画　大正三年論

書帯草　高倉巳の石とるもの

大森及四上紀行　鹿嶋紀行　附同文行の図

二乃世意田長高考　元和の銅鐘　墨書石塔の墓石

足利の石塔録　永和の二石塔

長浜の正月

大正十年東京行の

前の手前の場形

本郷二丁目上通谷崇軒の正起し

模造高標泉の序板

出石四より中通り紀行

雨と熱に入れる

見かけのみと屋上にあく

八人塩

江戸の人数に関せる球仏

前へ後へ

越後より種物書と京茶書の評あり

月中の兎と蝦蟇

女帝と道鏡との大さ

御行の図と根岸の古図

皇菱の菓切

スミッカリ

建保の板碑

いもの葉は蜂に蟄のぬ葉

ヘノコの名称考

信州善光寺の便論

廣瀬の七不思議

能のナンジャモンジャ

楊井成明氏自筆の楊形

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月瀬の梅と号するに[illegible]
[illegible]
三園の觀月会
[illegible]

法羽の尾張

八剣の[illegible]
向鳴[illegible]

行をこゝろみしゆの[illegible]
[illegible]の祭神と湖水
狸の陰書

大雅堂と馬琴の[illegible]
[illegible]

行滅之 [illegible]の歌
[illegible]
[illegible]

大[illegible]
樹枝によりて方角をもとる
大[illegible]

天壽の偽板碑

影向寺紀行

[illegible]能仁寺紀行

永[illegible]書[illegible]の[illegible]

[illegible]三尊堂[illegible]寺の[illegible]

[illegible]聖天の神[illegible]湯[illegible]

馬[illegible]

影向寺の板碑

鳥の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

大夢餅

[illegible]

[illegible]

共古日録四十八　目録

諏訪湖周囲の広さ　及び寛文年間の宮川洪水

東京及近在の狐仙出うせの種の数

稲荷の狐とその業柱　越後の昔話　狐とヒコザイン

京山米吉の話の奇　図会考証　紀行

婦人の髪のそのとき長さ　神田明神は尤も世ることと

マミラ山の長さ　金毘羅豊前野すき和内

狐とその考　及おわの　金毘羅各野の狐　同

武蔵国より長谷　物量　式所首　鑄銭用銅鉛

の量　同祥瑞の日

色里ミテケニヶ所

吉原七不思議

天保年間のなぞ　鏡に乗て

男子が髪結ること　屋上の天水桶

和田の力持　縄の力　山東屋　柄の鏡

下馬れの事ども　恵

ハイからとうこと　狐妻が東人　とまるもせし乱

八幡の母　孰田の食せ　百姓　鳴物の時日

沒世とう法　明治二年の市場図

博奕　番号の和歌

戀なる　立つる

俊徳は一人にはあらずとの説

俊徳の短冊

小股潜り　寺紀行

江戸鹿子に載る江戸所中京中行事
下越後の名称　江戸鹿子の古塚
将軍の狩の書付
子四銭
南蛮船渡来の当時の日記乃金銭に就ての説
大成至聖文宣王の御文乃九子追論　九子南の迎
青山春熙下司を拾出す　司寿堂銭の改形に就て
萩の銭を踏　茅心録人のうち紙中の文句
狸の墨丸八文字の説　高家の風
武蔵の浅野様文銭乃ゆゑ　丸子と雑書の真中にある祠
水仙はうく候つる　又狸の墨丸の説

古ら之月新花にのるおもしろ　火星銀
狸の腹鼓ハ京より言ふ
狸を祭せし祠
信州武州の魂
狸に捧ぐべき樹木
川姫さま解し難き
紀三井の川姫
江戸四谷の怪談の話

[illegible]の[illegible]
金銀[illegible]の守
雛祭の起りとひなの人形
菜の花雛
[illegible]の持ち様
芝泉山[illegible]の行先
漢碑の形式
[illegible]
海北友雪の歌画
独[illegible]石
剃刀と卯杖
寿公人出来
三川の下り[illegible]
寿公人出来の[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]と書てある箱
世[illegible]稲[illegible]の再建年月
[illegible]
数[illegible]
獅子の頭の古物
[illegible]川[illegible]の起り
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

江戸の名物の飯盛山

大山寺の筍の煮こゝ

江戸時代飯盛山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大古日誌 卅

[illegible] 大黒天の沿

[illegible]

山の子の事

富士山の麦畑

[illegible]

宗因桃[illegible]三[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗因の句

[illegible]

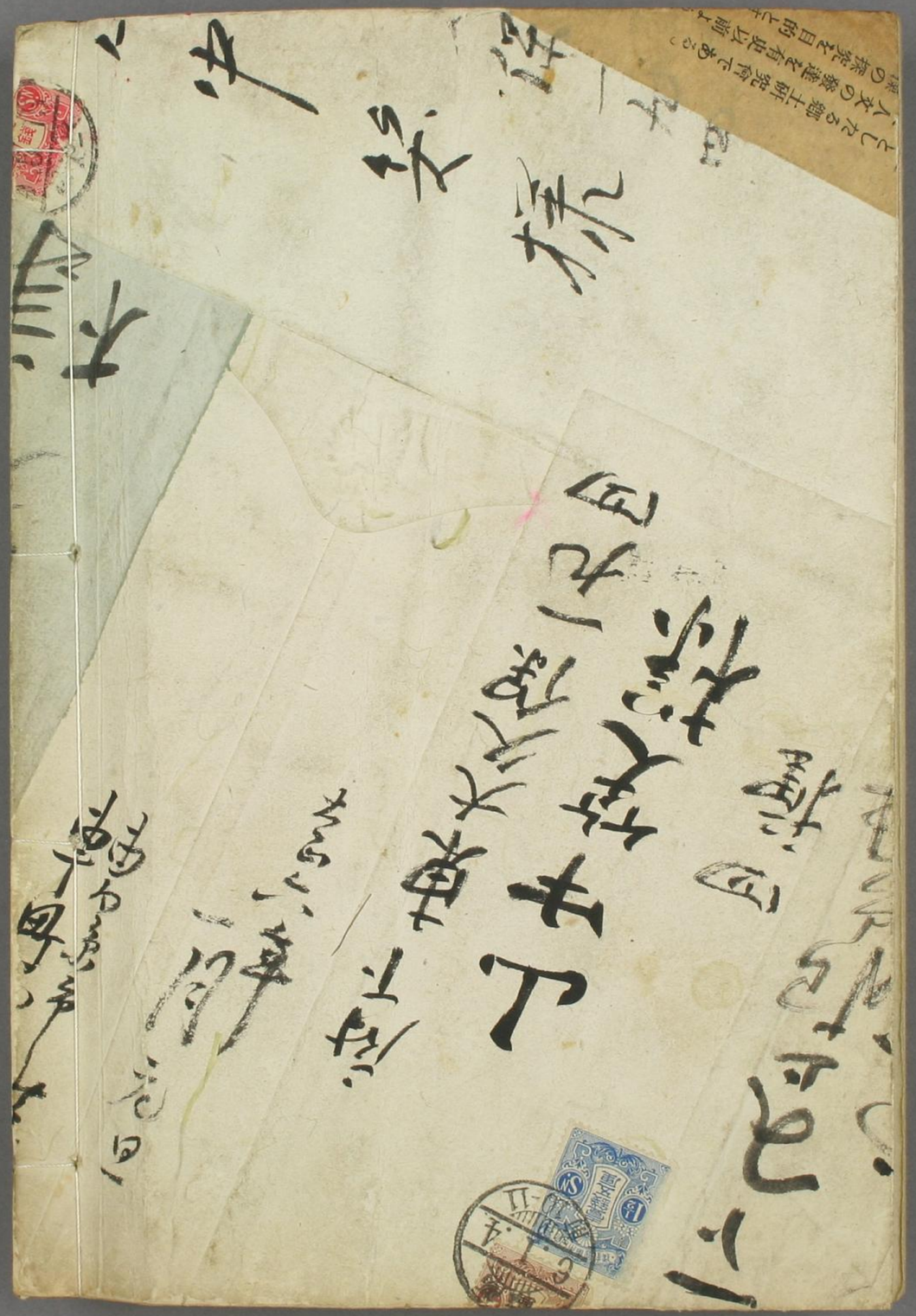
[illegible]

[illegible]

貧女[illegible]の老女を二文と書く　双瓜　二百四十と集し好子寄
津[illegible]　深川[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　

五石四紀り
二十六度結
延記二年六月結

日本人の長短
靈質立言の古木印
ニケ所ニ度結の狂言
東京四年夏丹後の銀札摺形
寛永寺古立言
長谷川性強 永言の塔
立言さは与ぬ名言
サンタクロス
五車亭の狂言
文政年間牛島の生涯の記事

四月結の記事
以上

鹿島神社修造年代及要名
慶應年間の所奉行
文化年間の磨の煙類
文政年間の記事